

# 品川支部

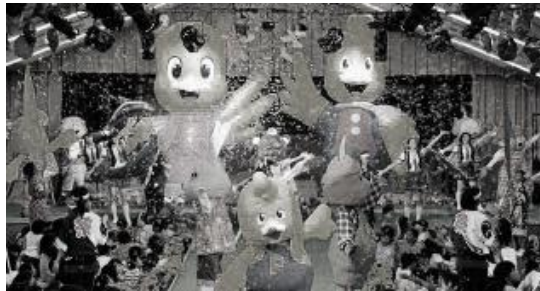
平成29年7月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
TEL 3442-7075

## 7月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 夏だ！今年もみんなと 子どもおちばかえいだ！

今年も例年通り、七月二十六日から八月四日までの日程です。とにかく、遊ぶ、遊ぶ、遊ぶ…… 楽しく過ごしている姿を親神様、おやさまにご覧いただき、お喜びいただきましょう。支部主催の団体は有ませんが、支部内の教会からいくつも、団体が出ています、初めての方でもきっと歓迎してくれますよ。お子さんだけでも安心して預けられます。情報は近くの教会で



楽しいビッキーランド



日本一の  
マーチングバンド



おやさとパレード  
スタートです

## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

七月九日(日)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん(七月五日(水))

当番は本品組です宜しくお願ひします

・神名流し

七月一日(土)午前十時〜

場所 大井西口ロータリー

・在宅センターひのきしん

七月二十八日(金)午前十時〜

・支部例会

七月は成東分教会ですが、場所の都合上千葉分教会に移動しての例会となります

今回は、移動が伴いますので幹事の方と

教会長で行います。次回八月豊英でのご参加を

お待ちしております (詳細は二頁参照)

## ☆教務支庁からのお知らせ

・教区・支部情報ネット

教区・支部の情報ネットが本部の

「天理教HP」信仰している方へ」上で「教区・支部情報ネット」を見る事が出来るようになります。

品川支部では、毎月発行していますこの支部報をPDF形式で掲載しておりますので、各教会の「元一日」を始め、閲覧することが出来ます。

## 神名流し(大井西口ロータリーにて)

殆ど毎月一日に神名流しを行っています。見たら避けず、声を掛けて上げて下さい、参加も歓迎



## 婦人会だより

六月四日に開催された「母親講

座担当者勉強会」好評でしたので

CDを各教会に配布致します

講演 本部長委員久保初美先生

(麹町支部長)

五月三十一日の委員部長講習会

は四百二十名の参加ありました

(品川支部からは、6名参加  
頂き有難うございました)

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号	30日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
都 南	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り	直送

時報手配り七月予定

# 品川支部特別例会

## 平成29年7月21日 (水) 九時出発

### 場所 成東から千葉分教会

### 内容 今回は間近にこどもおじば帰りを 控え、千葉に移動しての例会になり ます 座りづとめ よろづよ八首七下目 東京教区、支部連絡事項 三本成東教会長挨拶

**\*今回は移動の為一般参加は有りません  
又、来月の参加宜しくお願い致します**



## 教会紹介

### 日本橋大教会元へ日



日本橋大教会初代会長の入信は、明治十九年十一月である。当時、日本橋にて魚問屋をしていた中臺勘蔵は、重症神経痛、慢性胃腸病を患い、ご利益があると評判の神様仏様ならどこにでも話を聞きに行き、自宅に祭ったりしていた。

そんな折、本当にご利益がある神様があると聞き及んで、歩行も不自由な中、人力車を仕立て、後の東大教会上原佐助先生を訪ねた。「かしもの・かりもの」等のお話を聞かせて頂くと、「これは本物の神様だ、心から得心が出来た」と、帰りにはすっかり痛みもなくなり、人力車を降り、自らの足で歩いて帰られた。ここに日本橋の元一日がある。身上御守護頂いた喜びで「皆んなもなア 苦しいことがあつたり、困つたりした時は、

この神さんをお願いしな、きつと助けてもらえる。この俺がいい手本じゃないか」と自分の体験と、かりもの体である事の素晴らしさを喜びと共に皆に伝えて布教をした。「中臺さんの信じる神さんなら」と驚くべき速さで多くの方ににをいが掛かり明治二十二年に日本橋本小田原町にて日本橋講社の設立となった。教会本部が東京で設置される時の事情にお役に立てて頂いたのは、その前年の事である。この時のエピソードは「教祖物語」の「まるごとのおそなえ」にもあるので割愛させて頂く。明治二十四年四月に「中台勘蔵身上願い」の「おさしづ」を頂いた。「元一つの理運ぶ処は十分の理受け取り、今一時どういふ事情と思ふ処、元々成らん処を治した処。始めくく一つの事情」これはすなわち親神様が日本橋支教会を引直し、当時の東分教会より分離させ、新教会にさせようとの意であった、

一教会から教会を分離独立したという本教における初めての事情であった。やがて明治二十七年に至ってそれは実現の運びとなり、明治三十年十一月に日本橋本田原町から神田錦町に移転した。この時の神殿は後の神殿造りに大きく影響を与えたと言われる。

その後、大正十二年の関東大震災で教会は甚大な被害を受ける事となる。その復興をする上で、今の場所では狭いし、喧しいという事で、もっと静かで広い場所に移転することとなり、神田の土地は本部へ御供して現在の池田山の地に移転をしてきたのである。

こうして初代会長の詩いた種は、「みかぐらうた」にある「まいたたねはみなはえる」という教え、又「おさしづ」の「一旦蒔いたる種は、どうでもこうでも生やさしにやならん、生えんという理は無い」

(明治二十四年一月二八日)と教えられているとおり、見た目には何故と思う時があるであろうが、長い目で見ると。

成程と思うようになっていくものである。

現在の大会の姿になったのは、五代、六代会長時代の苦労であった。終戦直後の復興に始まり、神殿が四回、会長宅が二回、食堂棟が三回、教職舎(住込者の住居)四棟が二回の建直し。さらに六代会長は、詰所の移転建築、信者会館の建直し、又、東京教務支庁の事務所棟及び新館の建築に携わり、まるで二代にわたって土建屋の様な姿であった。

私で七代会長になります。歴代の真っ直ぐで、情熱ある実行力の伴った信仰を種として、本部の御用に、部内の丹精に、又教区の活動に、更にしっかり伏せ込んで参りたいと思ひます。

